

2026/1/18

説教題: 立派にふるまいなさい パート 2

聖書朗読: ペテロの手紙 第一 3 章 1-12 節

¹同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。²それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。³あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外見的なものでなく、⁴むしろ、柔軟で穏やかな靈という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。⁵むかし神に望みを置いた敬虔な婦人たちも、このように自分を飾って、夫に従ったのです。⁶たとえばサラも、アブラハムを主と呼んで彼に従いました。あなたがたも、どんなことをも恐れないで善を行なえば、サラの子となるのです。

⁷同じように、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。

⁸最後に申します。あなたがたはみな、心を一つにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。⁹悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。¹⁰「いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押えて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず、¹¹悪から遠ざかって善を行ない、平和を求めてこれを追い求めよ。¹²主の目は義人の上に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。しかし主の顔は、悪を行なう者に立ち向かう。」

おはようございます。またお会いできてうれしいです。先週はペテロの手紙 第一 2 章 後半を見ました。そこでは、使徒ペテロが私たちに与えたさまざまな戒めを読みました。11 節で、彼は次のように言っています。「¹¹愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。」彼は、私たちの体がしばしば求める罪深い欲望にふけることを慎むようにと私たちに諭しています。なぜなら、それらは私たちの魂と戦うものであり、もしそれにふけるなら、私たちの魂を傷つけることになるからです。

先週見た二つ目の戒めは、12 節の中に現れます—「¹²異邦人の中にあって、りっぱにふるまいなさい。」そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。」私たちは、社会で交流する無信者の中でも、私たちは立派にふるまわなければなりません。彼らは私たちの厳しい道徳規範を批判するかもしれませんのが、実際には私たちの高い基準と私たちが奉仕する神を認めていることになり、神を栄光あるものにしているのです。私たちの行動を優れたものに保ちましょう。あるいは、新国際版聖書の言葉を借りれば、私たちの品行を尊いものに保ちましょう。そうすることで、あらゆる行動において、私たちは神と主イエス・キリストに栄光をもたらすことができます。

これら二つの勧告に続いて、ペテロは私たちの生活の中で特定の関係においてどのように振る舞うべきかに注意を向けるよう促します。先週、私は皆さんに、私たちが社会の模範的な市民であることによって神に栄誉をもたらすことができると指摘しました。

社会の秩序が維持されることは神の御心であり、私たちクリスチャンは、私たちにたいして権威を持っている指導者たちを尊重することが賢明です。2章の残りの部分と3章の冒頭では、人間関係における神の御心が三つの大きな領域で説明されています。すなわち、13節から17節には市民の権威者への態度、18節から25節には僕の主人への態度、3章の1節から6節には妻の夫への態度が示され、7節で夫への訓戒があります。

1ペテロ 2:13-15 を読みましょう – 「¹³人の立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。それが主権者である王であっても、¹⁴また、悪を行なう者を罰し、善を行なう者をほめるように王から遣わされた総督であっても、そうしなさい。¹⁵というのは、善を行なって、愚かな人々の無知の口を封じることは、神のみこころだからです。」

キリスト者である私たちが、この世界で、この社会の中で正しく行動することは、神の意志です。社会は不完全で過ちを犯す人間によって運営されているにもかかわらずです。指導者たちの不完全さにもかかわらず、彼らは基本的に善惡を理解しており、法を制定し、悪人を罰し、時には社会に貢献した人々を称賛することもあります。私たちキリスト者は、模範的な市民として生きるべきです。

ペテロが述べている人間関係の第二の領域は次の通りです: しもべが主人に従うこと、神の御心です。1ペテロ 2:18-19 – 「¹⁸しもべたちよ。尊敬の心を込めて主人に服従しなさい。善良で優しい主人に対してだけでなく、横暴な主人に対しても従いなさい。¹⁹人がもし、不当な苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえるなら、それは喜ばれることです。」 神のしもべが、主人を敬い、主人が非常に意地悪で理不尽であっても従うとき、これは神に喜ばれることです。自分のキリスト者としての良心に従い、不当な状況さえも耐えましょう。世の中には多くの不正があり、時にはそれを耐え忍ぶ必要があります。理不尽な苦しみに耐えることで、あなたもこの世におけるキリスト者の証しとなるのです。

3章では、ペテロは人間関係の第3の領域に移ります。それは妻が夫に対する関係です。1節の冒頭の言葉に注目してください – 「同じように...」 前章で述べられた関係、すなわち市民が支配する権威に従い、僕たちが主人に敬意を払い服従する関係と同じように、妻も夫に服従すべきだと述べられています。これは人間社会で一般的に期待されることです。残念ながら、この考え方は人類の歴史の中で誤用され、夫の中には妻を奴隸や召使い、財産のように扱う者も少なくありませんでした。そのような極端な扱いは神の意図するところではありません。ここ3章で使用されている「妻」という表現は、先ほど引用した2章の「僕たち」への表現とは大きく異なっています。ここで述べられているのは、2章の僕と主人の関係とはまったく異なる関係です。

実際に、私は夫に向けられた7節を見てみたいと思います。なぜならそこでも「同じように...」と述べられているからです。社会秩序を維持するために権威構造を尊重し、神の意志に従うのと同じように、夫も妻に対して心に留めておくべき責任があります。7節から2つのフレーズを引用させてください。「同じように、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し...いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい...」敬意を払うのです。これは単なる召使いや奴隸、財産であることとはまったく異なります。命の恵みの共なる相続人として、敬意を払うのです。共なる相続人として。この中には平等があります—役割や生物学的な違いはあっても、価値の平等です。確かに、男性と女性の間には違いがあります。

先ほど引用した夫への最初の勧告に注目してください：「妻が…わきまえて妻とともに生活し...」とあります。妻を理解するには努力が必要です。なぜなら、男性と女性はとても違うからです。これは夫の責任です：妻を理解しようと努めなさい。それは簡単ではありません。有名な精神科医ジークムント・フロイトが、よく引用される言葉を残しています—彼はこう書きました：「女性は何を望むのか？」この有名な精神科医でさえ、女性が何を望んでいるのかを理解するのに苦労したのです。しかし、ペテロはまず何よりも、夫たちに妻と理解をもって共に暮らすべきだと伝えています。私たち夫は、妻を理解する努力をすることが賢明でしょう。

ここで、私は7節で夫について話していますが、まだ妻についての1~6節には触れていません。はい、それはわかっています。後で1~6節に戻りますが、まず夫とその責任について、もう少しコメントしておきたいと思います。

私が20代の頃に読んで、とても役に立ち、非常に有益だと感じた本をぜひ紹介したいと思います。この本は、キリスト教徒の夫向けに書かれており、妻を理解し共に生きるための多くの聖書的アドバイスが含まれています。本のタイトルは『If Only He Knew: A Valuable Guide to Knowing, Understanding, and Loving Your Wife』（ゲイリー・スマリー著）です。ペテロ手紙 第一3章、エペソ人への手紙5章、コロサイ人への手紙3章から多くの夫婦に関する説教を聞いたことはありましたが、この本は私に挑戦を与え、思考を革新するものでした。この本から学んだ最も重要な教訓の一つは、夫が家庭の主として家庭の調和を保つ究極の責任を負っているということです。本を読む中で、章ごとに読み進めるたびに、結婚生活のあらゆる場面は夫の責任であり、それを正しく機能させるのは夫なのだと教えられ、私の考え方は大いに揺さぶられました。すべて男の責任ですか？何か問題が起きたら彼が悪いという意味ですか？男も女も不完全な人間であり、どちらも罪人ではないでしょうか？時には、女の方に落ち度があることもありますよね？ええ、時にはそうですが、それはあまり関係ありません。家庭の主として、夫は家庭内の調和やその他すべてを維持するための全責任を負っています。私がいつも家庭内の調和を保ってきたと言えればよいのですが、実際はそうではありません。しかし、多くの場面で私は自分のこの責任を思い出してくださいました。男性の皆さん、家庭内の調和は完全にあなたの責任です—どうか覚えておいてください。

章の冒頭に戻って妻について語る前に、7節であと一つ強調したいことがあります。7節では、夫は妻に「いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬」を与えるべきだ、と書かれています。彼女に栄誉を与えなさい…命の恵みの共なる相続人として。共なる相続人。

このことは創世記1章の人類創造を思い出させます。創世記1:27-28を読みましょう—

「²⁷神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。²⁸神はまた、彼らを祝福し、このように神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」

神がご自身のかたちに人間を創造されたとき、神は彼らを男性と女性として創造されたことに注目してください。神は二つの異なる性を創造されましたが、両方とも神のかたちに創られています…どちらも神のかたちを宿しています。明らかに、私たちはそれぞれ妻を「命の恵みの共なる相続人として」尊重しなければならないことは事実です。創世記1章で、神が男性と女性に人類で地を満たし、地を従わせ、支配するという任務を与えられたことに注目します—共に。これは果たす共同の使命です。

さて、夫については十分に話したと思います。話を戻して、今日の文章の最初に戻りましょう。1ペテロ3:1-2—「¹同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。²それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。」

先週、私たちが社会の中で不信仰者の間で立派にふるまわなければならないと言ったときに見たように、こうして私たちは自分たちが神の子であることを証しします。同様に、妻は家庭における夫の主権を認めるべきであり、そうすることで夫を敬い、神を敬うことを見ています。これは秩序ある社会に対する神の御心です。そして、ここでペテロが注目しているのは行動であり、不信仰者を主に導く最良の方法でもあります。不信仰の夫に従順であることによって、あなたは純潔で敬意ある行動によって彼を真理に導くことができるかもしれません。

私のお気に入りのペテロの第一の手紙に関する注解によると、女性は時々、自分の夫をキリスト教徒にしようと話しすぎる傾向があるかもしれません。しかし、注解によれば、男性はそのような話を煩わしく感じることがあるそうです。ペテロはここで言葉遊びをしています。すなわち、御言葉に従わない夫に対しては、妻が夫を信仰に導く最良の方法は、言葉を使わないことかもしれないということです。夫はあなたの貞淑で敬意ある行動を見守るでしょう。そして、外見にあまり気を取られすぎないようにしましょう。

3節と4節を読みましょう—「³あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外観的なものでなく、⁴むしろ、柔軟で穏やかな靈という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。」

人類の歴史を通じて、女性は美しく見られたいと思い、男性は美しい女性を見たいと思ってきました。しかし、外見にばかり注目することには限界があり、外見の美しさはやがて失われます。本当に大切なのは、内面を磨くことです。4節をもう一度 - 「⁴むしろ、柔和で穏やかな靈という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。」これこそが大切で、これこそが不滅のものです：優しく静かな心、敬意を持ち従順な態度。これこそが神にとって価値あるものであり、夫の心を掴むものでもあります。

5節 - 「⁵むかし神に望みを置いた敬虔な婦人たちも、このように自分を飾って、夫に従ったのです。」旧約聖書に登場する聖なる女性たちは、神に希望を抱き、敬意と従順、そして優しい心をもって自己を飾っていました。彼女たちの装いは宝石や高価な衣服ではなく、敬虔な精神で自分を飾っていたのです。その敬虔な精神こそが、何よりもまず、私が妻に惹かれた理由でした。

6節 - 「⁶たとえばサラも、アブラハムを主と呼んで彼に従いました。あなたがたも、どんなことをも恐れないで善を行なえば、サラの子となるのです。」サラは創世記18章12節で夫を「主」と呼びましたが、彼女の生涯を見れば、ア布拉ハムが行くところにはどこへでも忠実に従っていたことが明らかです。もしあなたが女性が彼女の模範に従い、家庭内の関係で正しいことを行い、恐れないなら、サラの娘となることができます。ここでの恐れに関する言及は、不信仰な夫がキリスト教徒である妻に対して厳しく振る舞うかもしれないことに関係しているのかもしれません。しかし、私たちキリスト者は、どのような困難や迫害があろうとも、常にイエス・キリストに忠実であるべきです。正しいことを行い、不信仰な人々が私たちに何をするかを恐れてはなりません。

さて、私たちは7節に到達しましたので、これからその全てを引用します - 「⁷同じように、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。

もう一度：「⁷同じように、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。」

夫たちもまた、先週私が指摘したように、私たちの社会のあらゆる関係の中で神の意志に従うべきです。夫は、妻が弱い器であることを理解しようと努めるべきです。一般的に言えば、女性は男性よりも体が小さく、力も弱く、もろくなりやすい可能性があります。私たちはこれらの違いを認め、特に自分が結婚した女性に対して親切に接しなければなりません。妻を、命の恵みの共なる相続人として尊重してください。彼女もまた神のかたちに創られた存在であり、男女は共に地上を治めるべきだからです。この節の最後の言葉を見てください。もしあなたがこれらのことを行うなら、「あなたの祈りは妨げられない」とあります。神の方法で妻を扱わなければ、祈りの生活に影響があり、妻に対して正しく行動していかなければ、神はあなたの言葉に耳を傾けないかもしれません。

使徒パウロが夫たちに向けて言ったことを少し見てみたいと思います。コロサイ人への手紙 3:19 「¹⁹夫たちよ。妻を愛しなさい。つらく当たってはいけません。」ここでパウロは夫に二つの指示を与えています。まず一つ目は、妻を愛することです。男性は時々これを忘れてしまうことがあるのかもしれません。二つ目は、妻に対して憤りを抱かないことです。人間関係において、誰もが時にはお互いを苛立たせることがあります。これは夫婦にも起こり得ることです。しかし、私たちは自分の命を捧げ、愛を誓った女性に対して、どんな種類の恨みや苦い感情も抱いてはいけません。愛し続けましょう。ネガティブな感情を長く引きずらず、苦い感情は止めて、愛し続けてください。

さて、先週のメッセージと今日では、人間関係における神の御心を三つの広い分野で見てきました。それは、国民と政府の関係、しもべと主人の関係、そして妻と夫の関係（その逆も含む）です。次に、ペテロは手紙のこの部分をまとめています。

1 ペテロ 3:8 – 「⁸最後に申します。あなたがたはみな、心を一つにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。」人間関係についての彼の発言をまとめるに、ペテロは次の基本的な助言を私たちに示しています。互いに調和して生きましょう——兄弟姉妹、両親、夫婦、友人、同僚、雇用主と従業員、市民と統治当局、そして教会においても。すべてが調和しているようにしましょう。互いに思いやりを持ち、人々の必要に敏感であり、助け合えるときはお互いに助けましょう。兄弟愛を持ちましょう——イエスは、弟子たちが互いに愛を示すとき、信じない人々が、私たちが本当に主イエス・キリストの弟子であることを知るとおっしゃいました。互いに親切な心を持ち、謙虚な精神でいましょう。

ペテロは9節で続けます——「...⁹ 悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えないさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」悪に悪で報いないでください。誰かに悪意を向けられたときに仕返しをしたくなるのは、とても簡単で自然なことです。しかし、イエスはそうしませんでした。イエスは地上に来て、私たち堕落した罪人を贖い、私たちの罪を赦してくださいました。私たちも同じように他の人々に対してそれ以上のことをしてあげられないでしょうか？復讐を求めず、あなたに悪をした人に悪を返さないでください。彼があなたに向けた侮辱と同じような言葉を返さないでください。その代わりに、祝福してください。そうです：あなたに悪を行い、侮辱の言葉をかけたその人を祝福してください。私たちは神によって祝福を受け継ぐために召されたのです。神は私たちを祝福してくださったのですから、今度は私たちも他の人々を祝福しましょう。

はい、他の人を祝福しましょう。そして、『相続する』という言葉に注目してください。この言葉は私たちの将来の相続、すなわち永遠の命を得るという約束を示唆しています。ペテロの手紙 第一章 3-4 節を思い出してください。——「³私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせ

て、生ける望みを持つようにしてくださいました。⁴また、朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。」

私たちの相続財産は朽ちることのないものであり、天に私たちのために用意されています。ペテロが3章で語っている祝福とは、私たちの主と共に永遠の命を得るという約束です。

そして、これは私たちが他の人々と分かち合うべきメッセージです。覚えておいてください：2章と3章のいくつかの箇所で、ペテロは信じない人々の中で私たちが生活する際の証しについて心を配っています。先週、私たちは過去の罪深い欲望を慎むべきであり、社会の中の異邦人、すなわち信じない人々の間で私たちは、立派にふるまわなければならぬことを見ました。信じない人々は私たちの高い徳規範を批判するかもしれません、そうすることで、私たちクリスチヤンが神を敬っていることを認めることになります。1ペテロ2:12 – 「¹²異邦人の中にあって、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。」私の解説には、このフレーズについて興味深いことが書かれています。「おとずれの日に神をほめたたえるようになりなさい」という言葉です。新約聖書のいくつかの箇所では、「神をほめたたえる」というのは、救いに至ることを意味する表現として使われています…そして、訪れる日とは救いの日を指す言い方です。ペテロは、私たちが尊い生活を送ることに非常に関心を持っており、それによって周囲の信じない人々に証しとなり、彼らがキリストに改宗し、永遠の命を受け継ぐ可能性があるよう望んでいます。

2章の後半で、ペテロは、キリスト者が社会の模範的な市民であることが神の御心であり、これによって世界に対して私たちが神の従者であることの証となると語っています。そして3章の冒頭では、彼は妻たちに純潔で敬意のある態度を持つよう奨励しており、それによって信じない夫たちをキリストに導くことができると述べています。ペテロは繰り返し、私たちの生き方がキリストの証となることへの関心を示しています。

ペテロの手紙第一3章8節から9節に戻ると、私たちは、自分を傷つけた人々に復讐することを拒み、代わりにその人々を祝福するとき、私たちは祝福を受け継ぐことができる学びます。そのことのために私たちは召されたです。信じていない人々の前での正しい生活は影響を与え、その中の何人かはキリストを信頼する仲間に加わるでしょう。そして彼らもまた永遠の命を受け継ぐことになるのです。

私は自分のお気に入りの聖句のひとつを思い出します。それはこれまで何度も皆さんに共有したことがあります：

2コリント5:18-20 – 「¹⁸これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。¹⁹すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。²⁰こういうわけで、

私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。」

私たちキリスト者は、和解の務めを与えられています。つまり、私たちの周りの非キリスト者に福音のメッセージを伝え、彼らもまた創造主である神と和解できるようにするということです。

1ペテロ3章に戻りましょう。8節と9節の後、ペテロは旧約聖書から引用しています。この部分をもう一度読みましょう。8節から始めて12節まで読みます。–「⁸最後に申します。あなたがたはみな、心を一つにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜であります。⁹悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えてください。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。¹⁰『いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押えて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず、¹¹悪から遠ざかって善を行ない、平和を求めてこれを追い求めよ。¹²主の目は義人の上に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。しかし主の顔は、悪を行なう者に立ち向かう。』 [詩篇 34:12-16]. 」

私たちは世のやり方に従いません。私たちクリスチヤンは、害を受けたときに復讐してはいけません。むしろ、11節にあるように、私たちは平和を求め…それを追い求めます。主は悪を行う人々に反対されます—それは私たちの価値観に反することです。平和を求めるましょう。正しく生きましょう。主は義なる者の祈りに応えてくださいます。先週お話ししたように、立派にふるまい…行動を名誉あるものに保ちましょう。こうすることで、世の人々は私たちの証を見、信じない人々の中には創造主である神との和解の道を求める者も出てくるでしょう。

今日のメッセージを締めくくるにあたり、主要な忠告を述べさせてください。

- 立派にふるまいましょう。
- この社会の中で正しく歩むことで、私たちの周りの信じない人々に良い証しを示しましょう。
- 妻は行動において従順で尊敬の念を持つべきです。
- 夫はいのちの恵みをともに受け継ぐ者として妻に尊敬を与えるべきです。
- すべての関係が調和的で、共感に満ち、兄弟的で、親切で、謙虚な心を持つものでありますように。
- 悪いことをされても、悪で応じるのではなく、祝福を与えましょう。
- 私たちは神によって永遠の命の祝福を受け継ぐように召されました。私たちは和解の務めを与えられたので、このメッセージを周りの信じない人々と分かち合いましょう。